

令和6年度 第2回 滋賀県総合教育会議

不登校の状態にある

子どもの学びと居場所の保障について



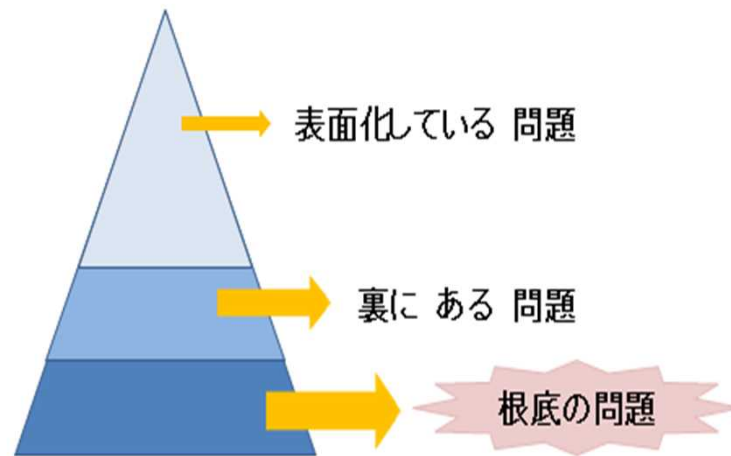
令和6年11月22日（金）10：00～12：00
滋賀県庁 東館7階 大会議室
滋賀県教育委員会 S S W S V
（スクールソーシャルワーク スーパーバイザー）
社会福祉士 上村 文子

(大人から見て) **困った子** (困らせるようなことをする子) は、
(子どもの視点に立つと) **困っている子** (困難を背負わされている子)

多様化する子どもの心配な症状の表面だけを対応するのではなく、その背景を読み解く必要があります。福祉的な視点として **子どもを取り巻く環境** (学校環境・家庭環境・地域環境) を **調整** したり、福祉の援助技術を活用することで、様々な課題に対し、学校で出来る支援だけでなく関係機関と連携する支援など包括的な支援も可能になります。

今、必要なのは

子どもの学校不適応の背景を読み解く 視点



※ 事実からの読み取り と **真のニーズの見極め**

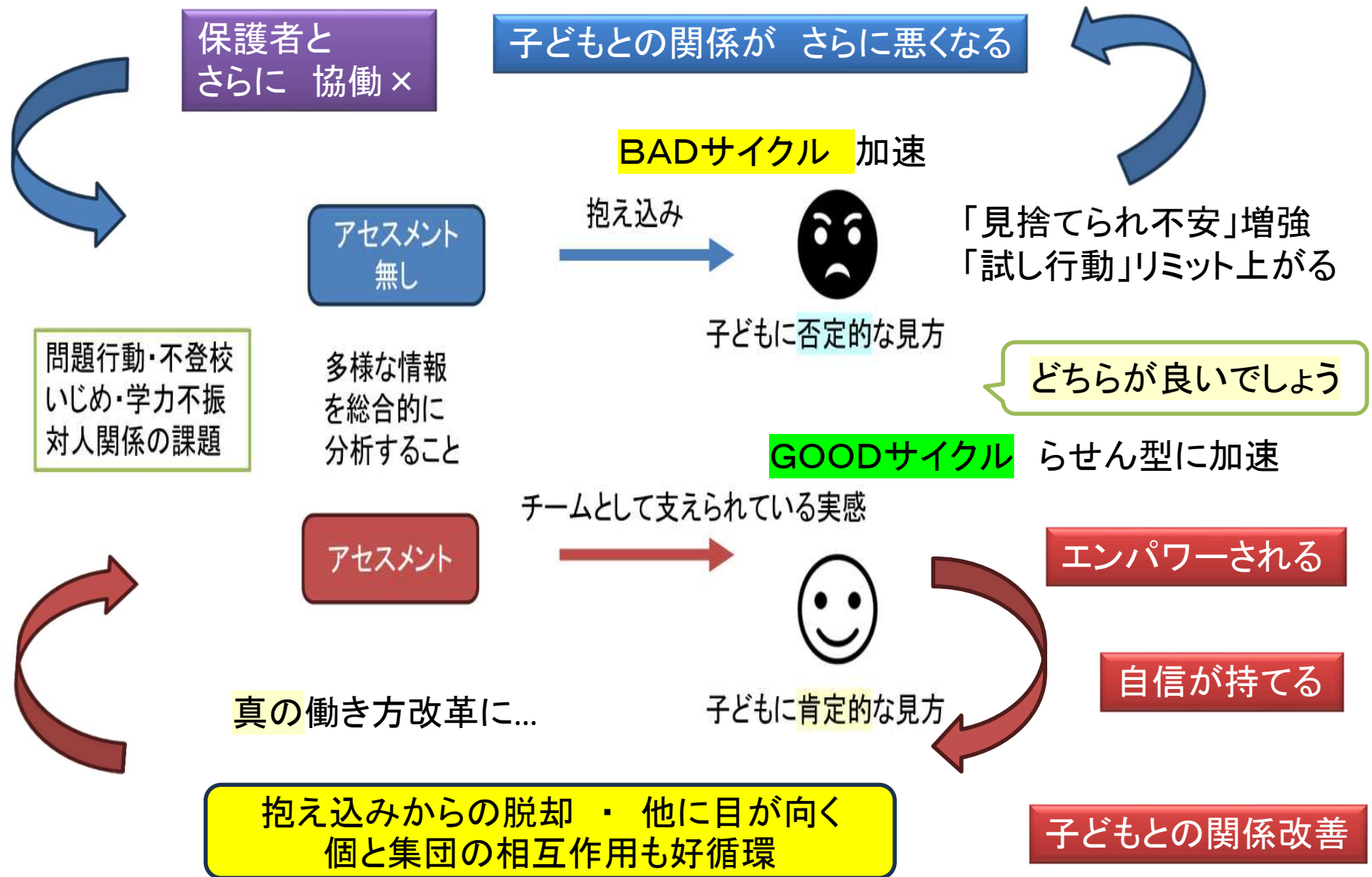
問題行動 いじめ 不登校
対人関係の未熟さ、
暴言暴力の学び、
耐性がない(我慢が出来ない)
行動・思考・情緒の幼さ
規範意識の欠如

発達課題との相互作用

家庭支援が必要

アセスメント(見立て)が 好循環の鍵

＜的確な見立て⇒子ども理解⇒良好な支援⇒組織が豊かになる⇒「真の働き方改革」＞

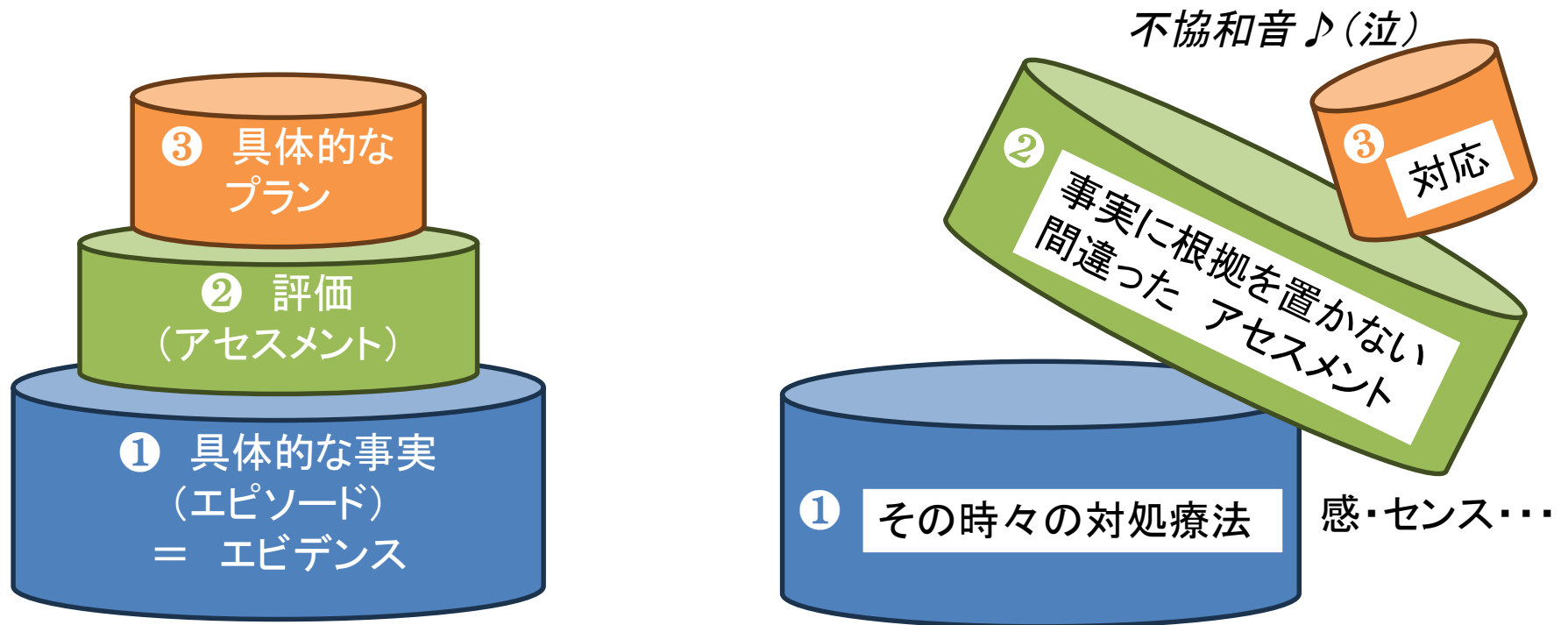


効果的なアセスメントに基づく対応 と 対処療法との違い

困難事例の多くは、多面的に見ていく視点が大切です ➡ 立場が違うと見え方も異なる

子ども・保護者の「訴え」「事象」の事実を丁寧に聴く

➡保護者の想いと学校の見え方の差異はどこなのかをアセスメントする。言動の背景を汲む。
真のニーズはどこか 表面上の問題と根底の問題 複合する問題 見極める。



- ☐ 不適切な養育で育つと対人関係でどのような症状を示すのか？
- ☐ 発達障害の症状と虐待の症状が似ています。峻別のポイントは？ 両方重なりやすい。
- ☐ 社会性・想像することに困り感がある…。通常学級における困り感とは？

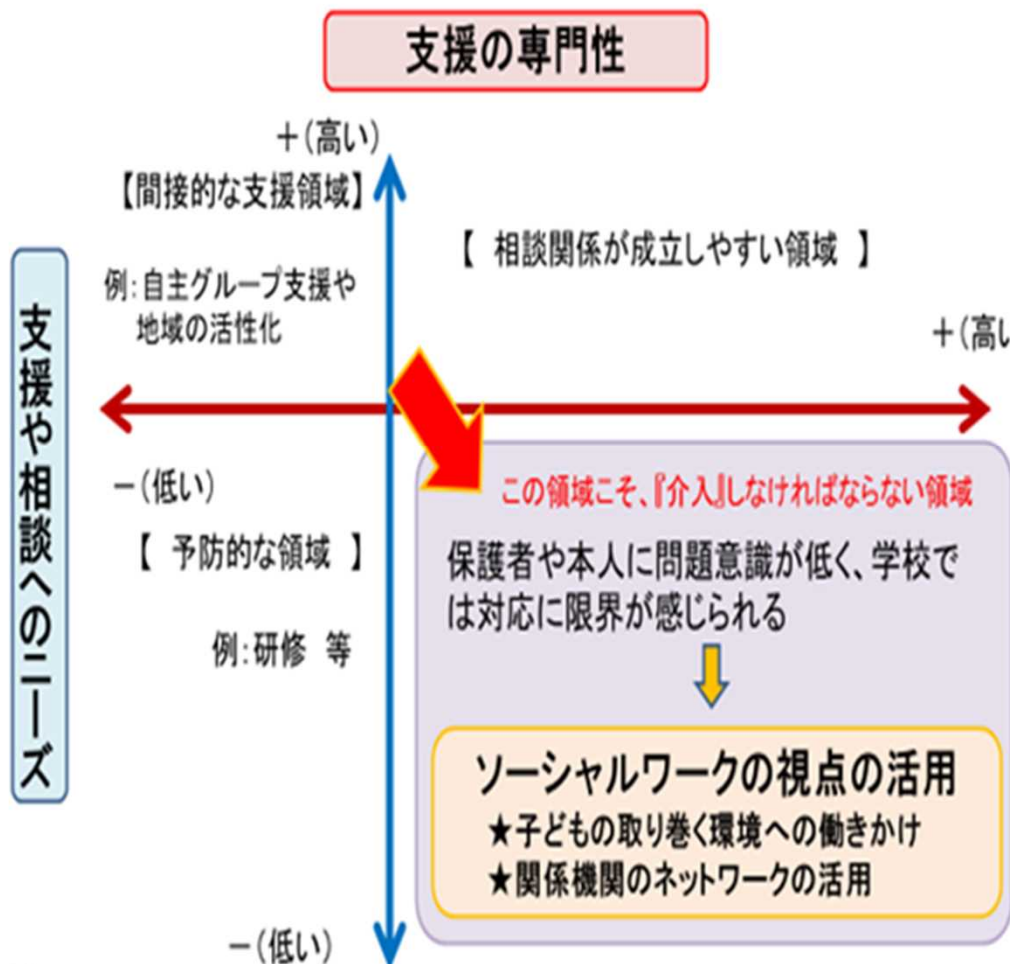
支援に“つなぐ”～橋渡し～

支援が必要なのに 支援が届きにくい

◇ 本人を取り巻く「環境」へのアプローチ



SSW活動時間数は どうであるか？
常勤ではないため(直接支援と間接支援)



◆ アセスメントに基づき
◇ 出向いて つなぐ「情報の共有」
家庭児童相談室 警察 児相
病院 市町の福祉行政
子どもの地域の社会資源
きょうだいの関係機関(園・小・中)
学校におけるコンサルテーション

◇ 同行して(支援者・保護者・生徒が)
関係機関 と「人がつながる」

◇ ネットワークの強化 「点を太くつなぐ」
日頃からの情報の共有
再アセスメントとプランの立案

引用：
山野則子(2007)「日本におけるスクールソーシャルワーク構築の課題-実証的データから福祉の固有性の探索」より

子どもと支援者が「つながる」ように

孤立・無縁を防ぐ

特定

児童生徒の状況

すべて

【社会的に不利な状況が多い】

- ・福祉等の機関につながりにくい
- ・全欠不登校
- ・多問題（困窮・虐待・ヤングケアラー・ひとり親
障害・外国にルーツがある等）家庭
- ・アウトリーチを必要とする

困難課題対応的生徒指導

課題早期発見対応

課題予防的生徒指導

課題未然防止教育

発達支持的生徒指導

社会的に自立に
必要なこと ➡ つながり

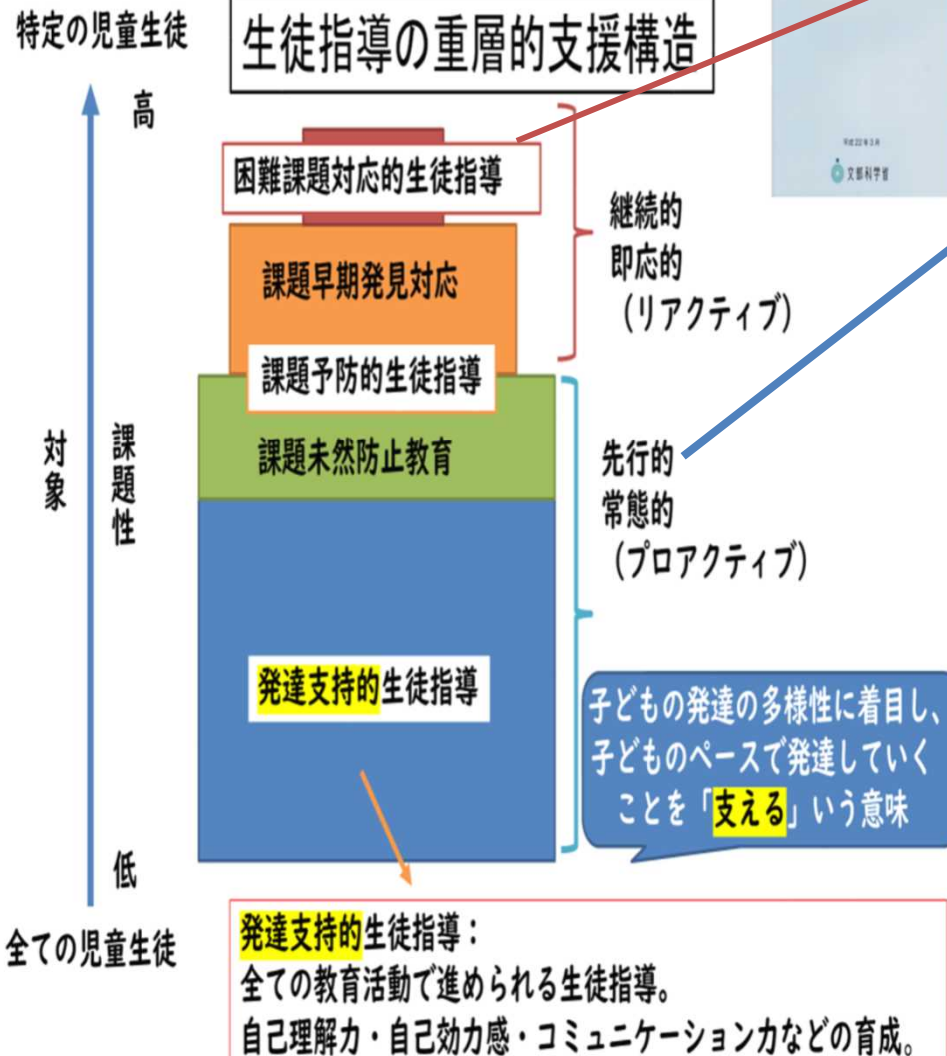
生徒指導上の「課題」

小

大

「させる」から「支える」生徒指導に

生徒指導提要 改定



多職種連携の重症不登校

学校内 だけでなく

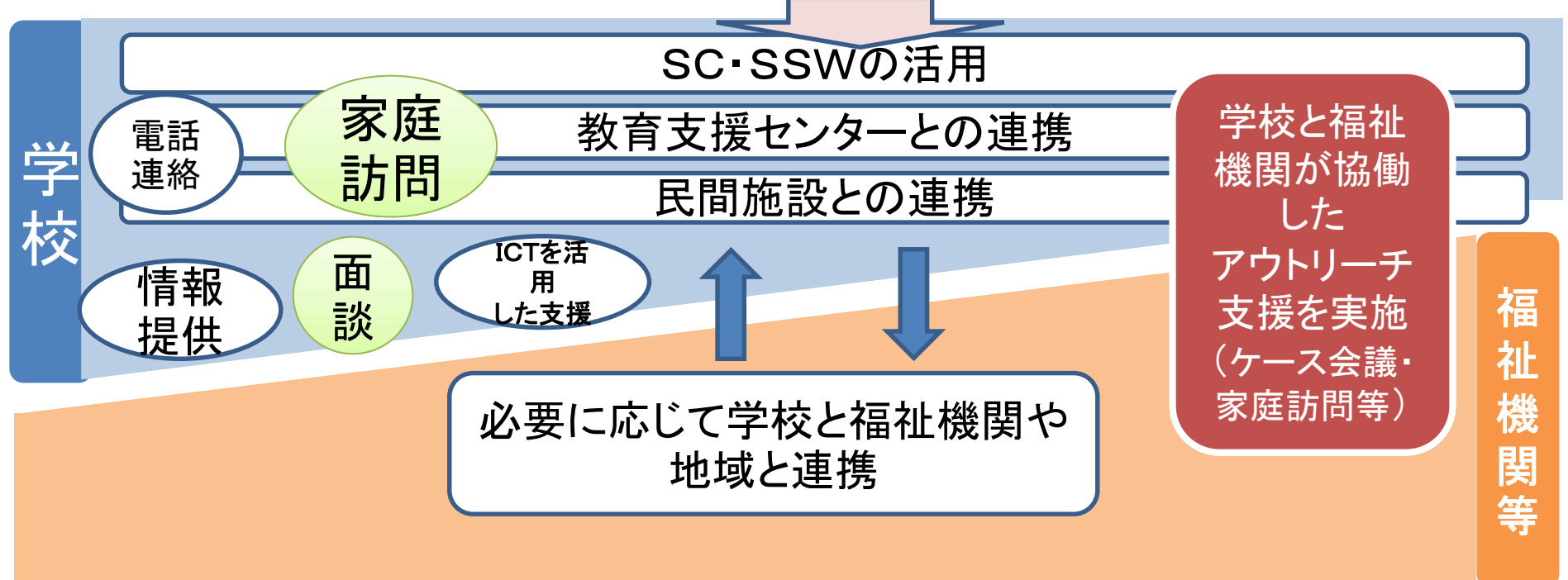
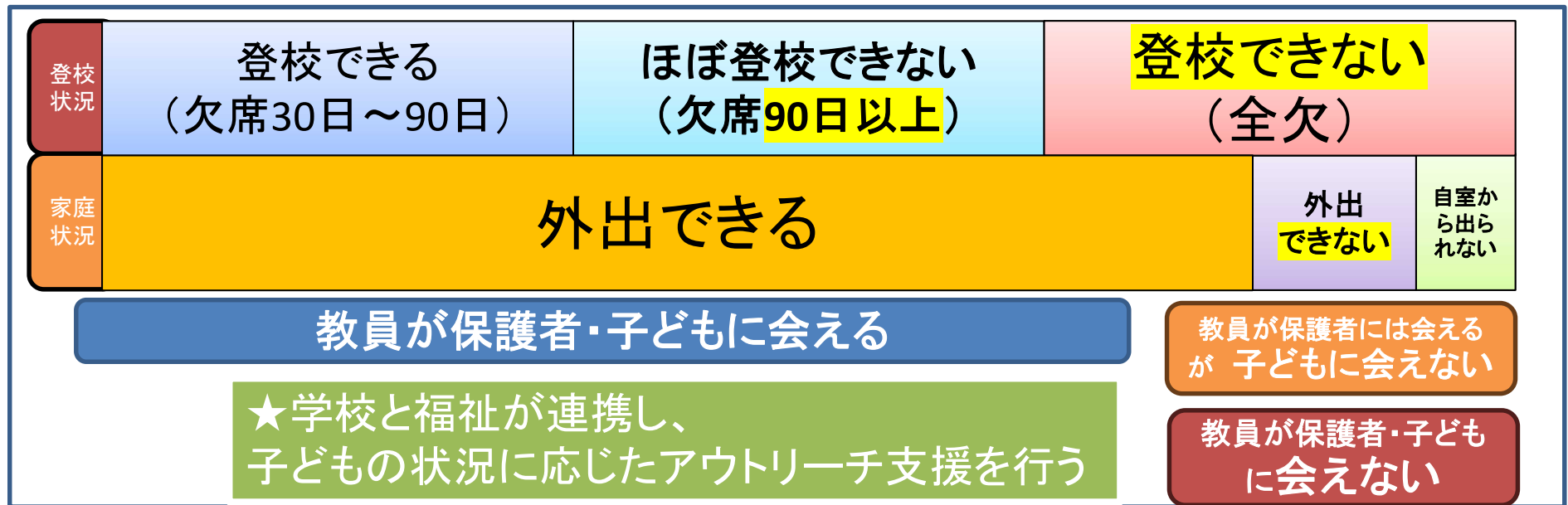
学校外も 同じように…

「発達を支える」

子どもの
心理面（自信・自己肯定感等）
学習面（興味・関心・学習意欲等）
社会面（人間関係・集団適応等）
進路面（進路意識・将来展望等）
健康面（生活習慣・メンタルヘルス等）

地域社会の中で…
地域の大人が、多様な活動で
「支えていく」

学校内外の専門機関等で相談・指導を受けていない不登校児童生徒の状況と支援



学校支援

不登校支援と家庭背景

学校だけで対応

①担任のみ

Pickup!!

②教育相談担当 把握はするが
直接関わりない

Pickup!!

③支援部会に上がっているが、
優先度が低い

Pickup!!

支援リストへ

SC・SSWと連携できているケース

①複合困難を抱えるケース

ア)	親	○	子	○
イ)	親	○	子	×
ウ)	親	×	子	×

SC・SSW連携

家庭教育・子育て
関心がある家庭

ア) 親○ 子○

イ) 親○ 子×

つながり×

不安・悩みを
抱える家庭

福祉的な対応
が必要な家庭

児童福祉法に基づく支援

つながり×

学校は唯一全件把握できる機関である

将来の「ひきこもり」支援の充実
につながる（孤立・無援予防）

的確な見立て（アセスメント）が、小学校段階（遅くとも中学校卒業までに）
で出来れば、既存の制度・システムで切れ目のない支援で社会自立を促進できる

社会の変化 ～子どものサイン～

学校は、「学習機会と学力を保障するという役割のみならず、全人的な発達・成長を保障する役割や、人と安全・安心に **つながること**ができる居場所・セーフティネットとして身体的、精神的な健康を保障するという福祉的な役割」※を担っている。

※「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（令和3年中教審答申）より

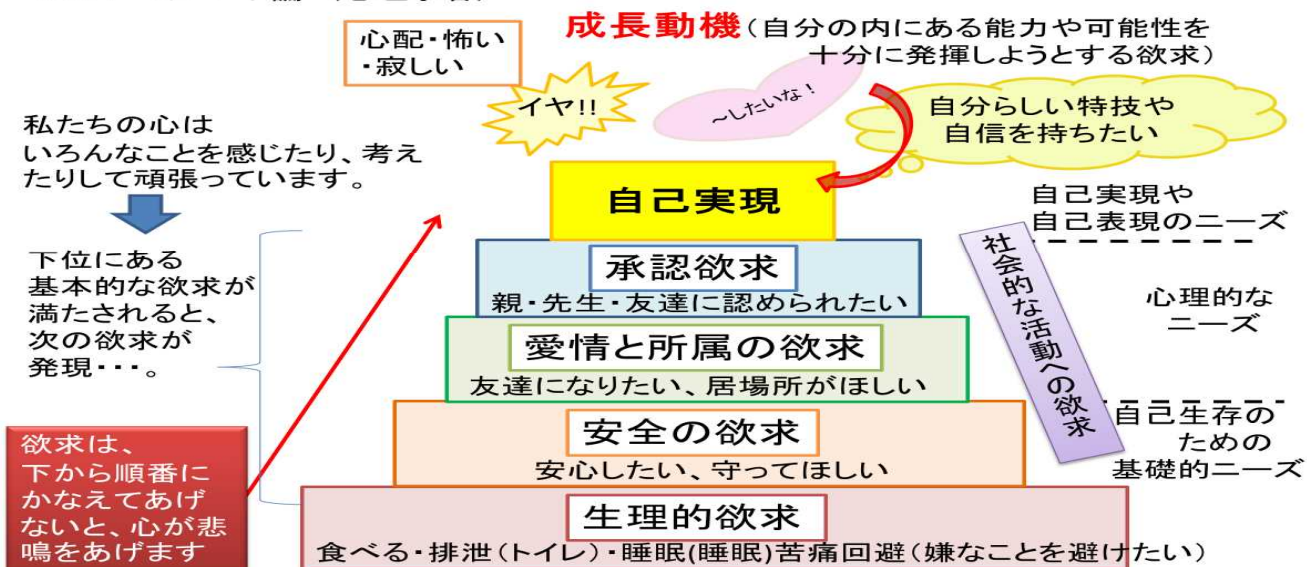
福祉的な役割・・・ **ふ**つうの**く**らしが**し**あわせに・・・（すべての人が人間らしく過ごす権利があり...）
ウェルビーイング（身体的・精神的・社会的に 充足されている状態...）

発達支持的
生徒指導

と

教育と福祉の
連携・協働

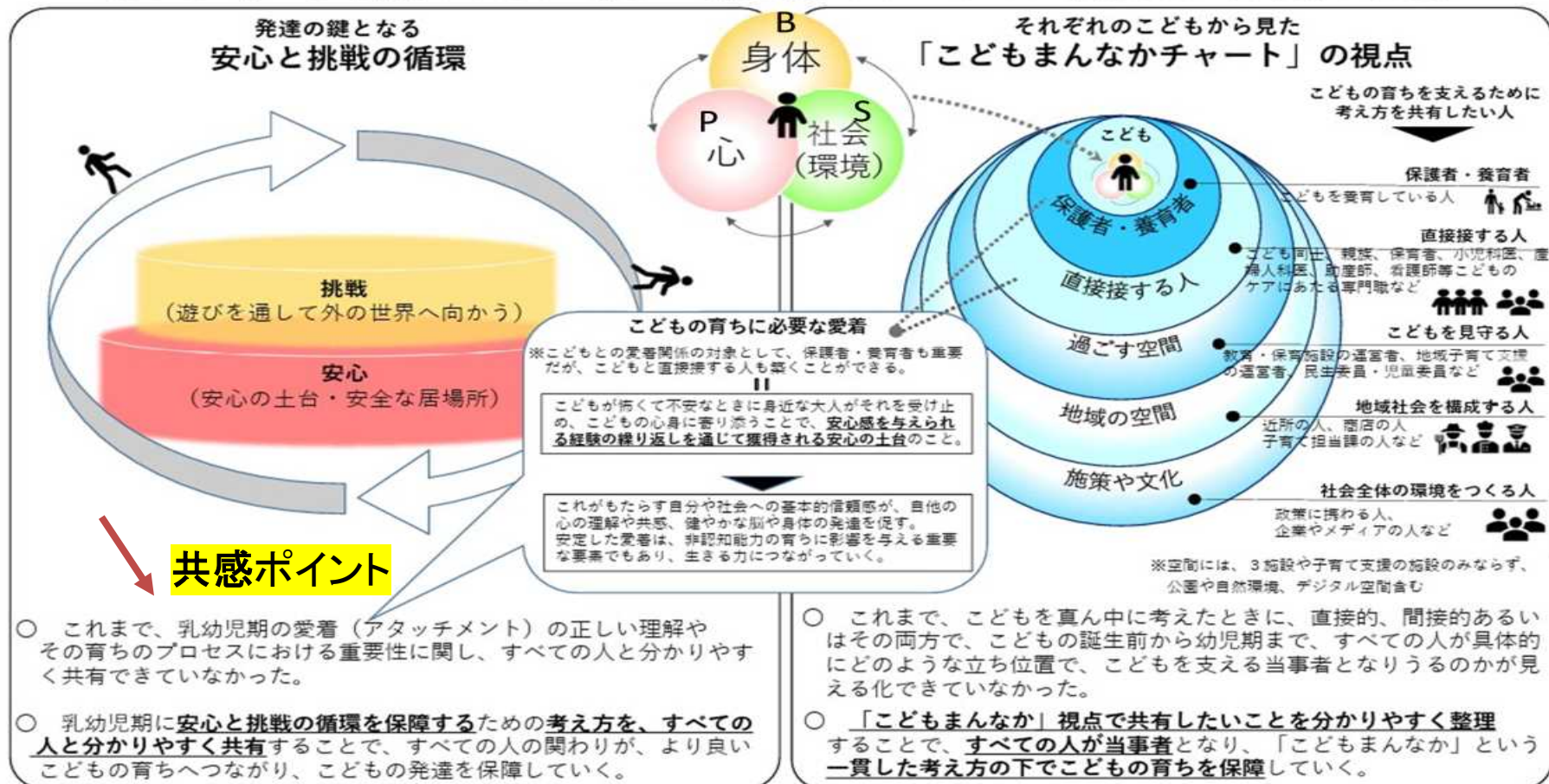
～人が生きていくために必要なニーズ（欲求）とは～
マズローのニード論（心理学者）



子ども理解 が 基本。しかし、それぞれの専門性が高まり、
子どもを取り巻く社会と親子の症状を相対的に見ることができずに
「育ち」(福祉)「学び」(教育)の両分野を高機能多機能にしていたの
ではないか？今一度原点に立ち返り...教育と福祉を考える...<上村私見>

こどもの誕生前から幼児期までの「こどもの育ちの基本的な考え方」

こどもの育ちに係る他の指針等とあいまって、すべてのこどもに、身体、心、社会(環境)のすべての面での育ちを一体として保障するために育ちの時期を問わずすべての人と共有したい基本的な考え方

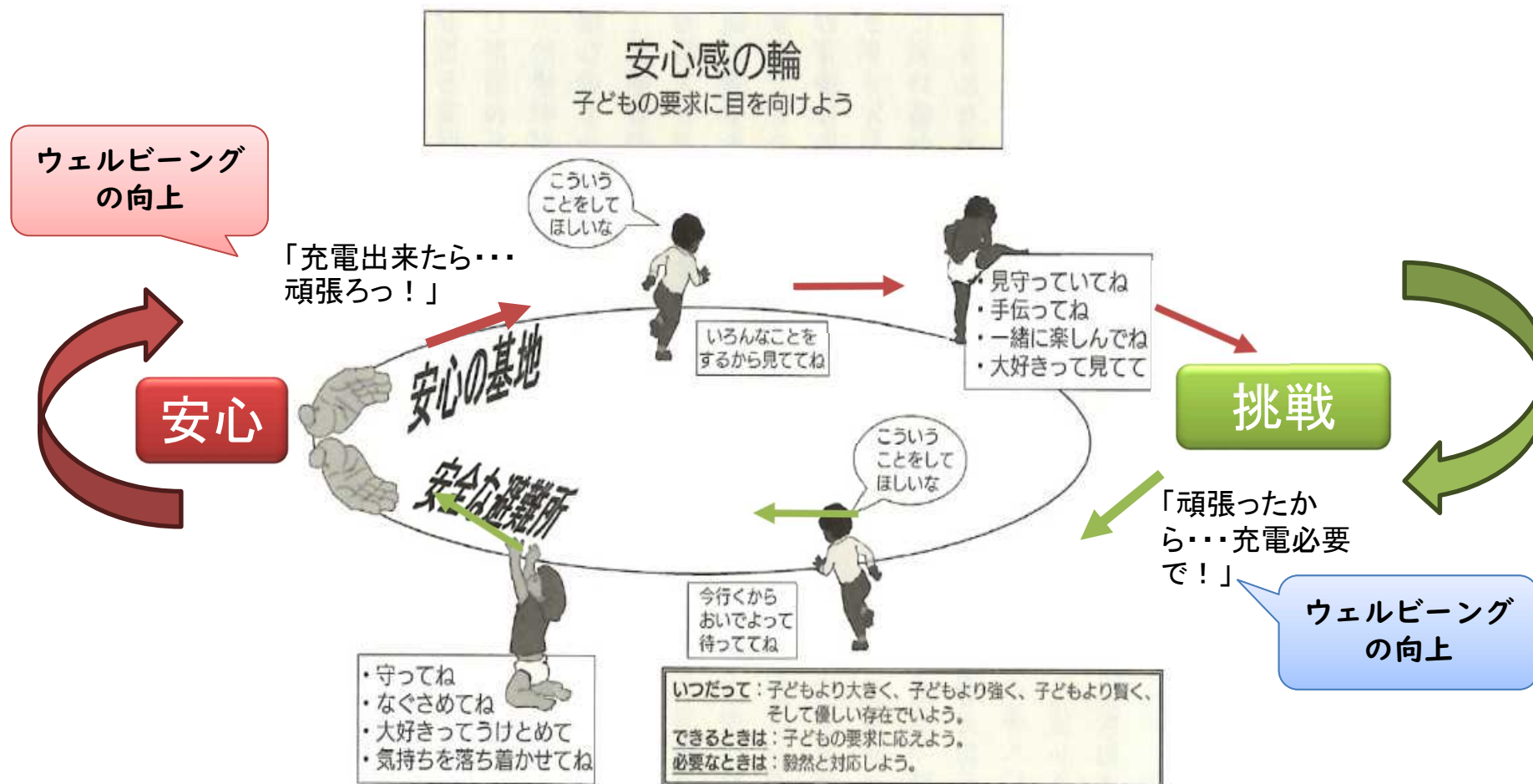


引用:こども家庭庁HP資料より 一部上村加筆

愛着形成のために必要なこと

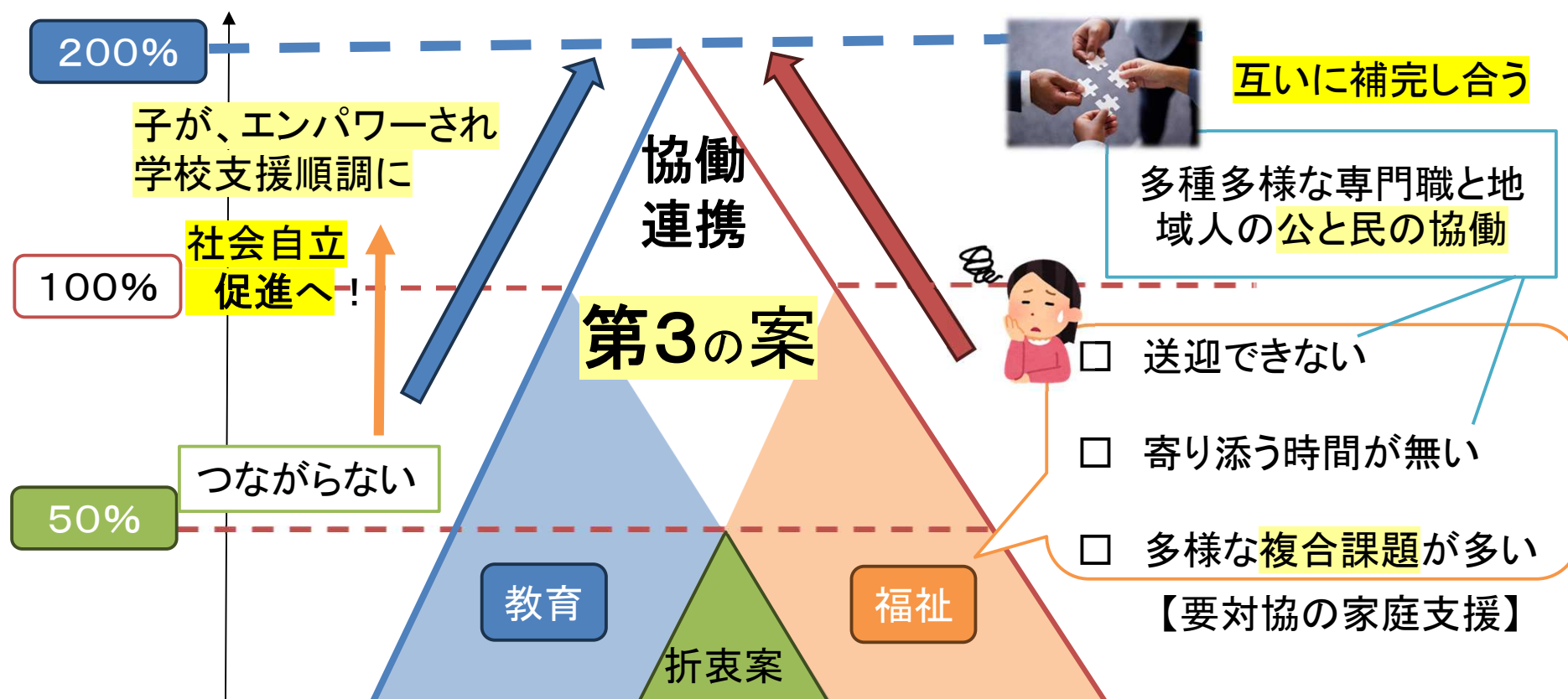
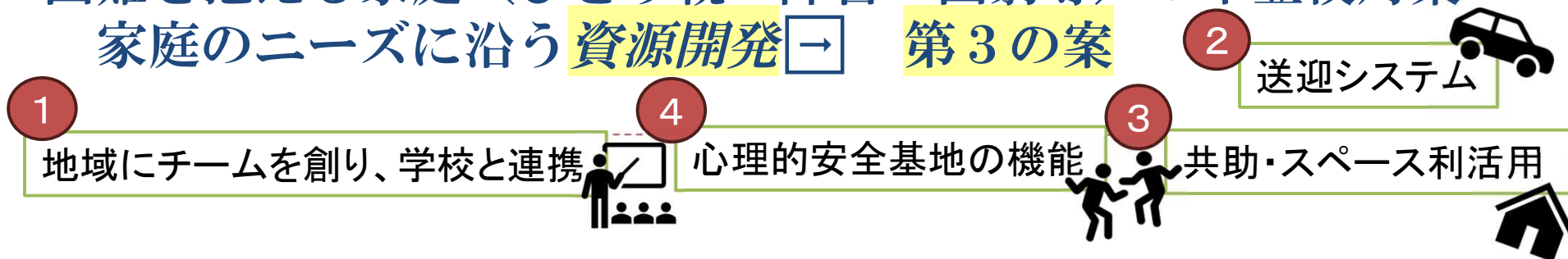
「基本的信頼感」は、居場所機能の根底に必ずある

- ・ 愛着形成のためには、子どもの愛着行動に気づき、しっかり受け止め、子どもの気持ちに共感的に寄り添います。
- ・ そして子どもの探索行動について「一緒に楽しんで、見ていて」という欲求を向けてきたときには可能な限り応えて子どもを見守ります。
- ・ この一連の「安心感の輪」に基づく対応を、子どもの愛着形成・修復の基本姿勢として認識してください。



(参考) 数井 みゆき 編著：アタッチメントの実践と応用 医療・福祉・教育・司法現場からの報告 誠信書房、2012、p27より引用

困難を抱える家庭（ひとり親・障害・困窮等）の不登校対策 家庭のニーズに沿う資源開発 → 第3の案



複数の要素や力を組み合わせることで、互いに補完し合い、**相乗効果**を生み出す。個々の要素や力が**単独**で持つよりも、**組み合わせる**ことでより**大きな成果や効果**を!!

～ 令和・ポストコロナの今こそ！～

支援者が **チーム** になり、**アウトリーチ**する（**地域に出向く・紡ぐ**）

～ 昭和⇒平成 ～

個人のみのアウトリーチも
機能していた

複雑・急な変化・多様

専門性の縦割りと協働の横連携

家庭との協働が困難



ケース会議 等

制度・対象にマッチ



家庭と協働が成立

制度の隙間を埋める
多様な支援の立場を
コーディネートしていく
「共創」の視点も！

的確なアセスメントと具体的なプラン

教育

福祉



結果的に みんなに
Win-Win

課題解決に



スクールソーシャルワーク

コミュニティソーシャルワーク

複数の人や組織が**協力し合い**、個々の合計以上の成果を意図的に生み出す
相乗効果（シナジー） …1+1=2ではなく、1+1が**3**！、時には**10**に！

アウトリーチ型（届ける・紡ぐ・創る）

無支援☐ 多様な社会自立へ 地域力も活用

まず個別につながる⇒安心確保⇒孤立・無援脱却！⇒入口：少しオーダーメイド方式

多様なステークホルダーの活躍で...
官・公・民・志

A・B・Cの多様な支援の
あり方を助言・伴走
(コーディネート機能)

中間組織

A 個人

B チーム

C 法人

「子どもの笑顔」は
共助のつながり強め
まちづくりにつながり
いずれ「防災」に
つながる

志

縁

多様性 多機能 高機能
ニーズ&課題解決支援メニュー

対象

場

内容

すべての子

open

定期開催

要保護

close

オーダーメイド

【既存のコミュニティ】 + 【令和型コミュニティ】

多様なコミュニティが、協働し合う

地縁（行政区）：県・市町支援

血縁

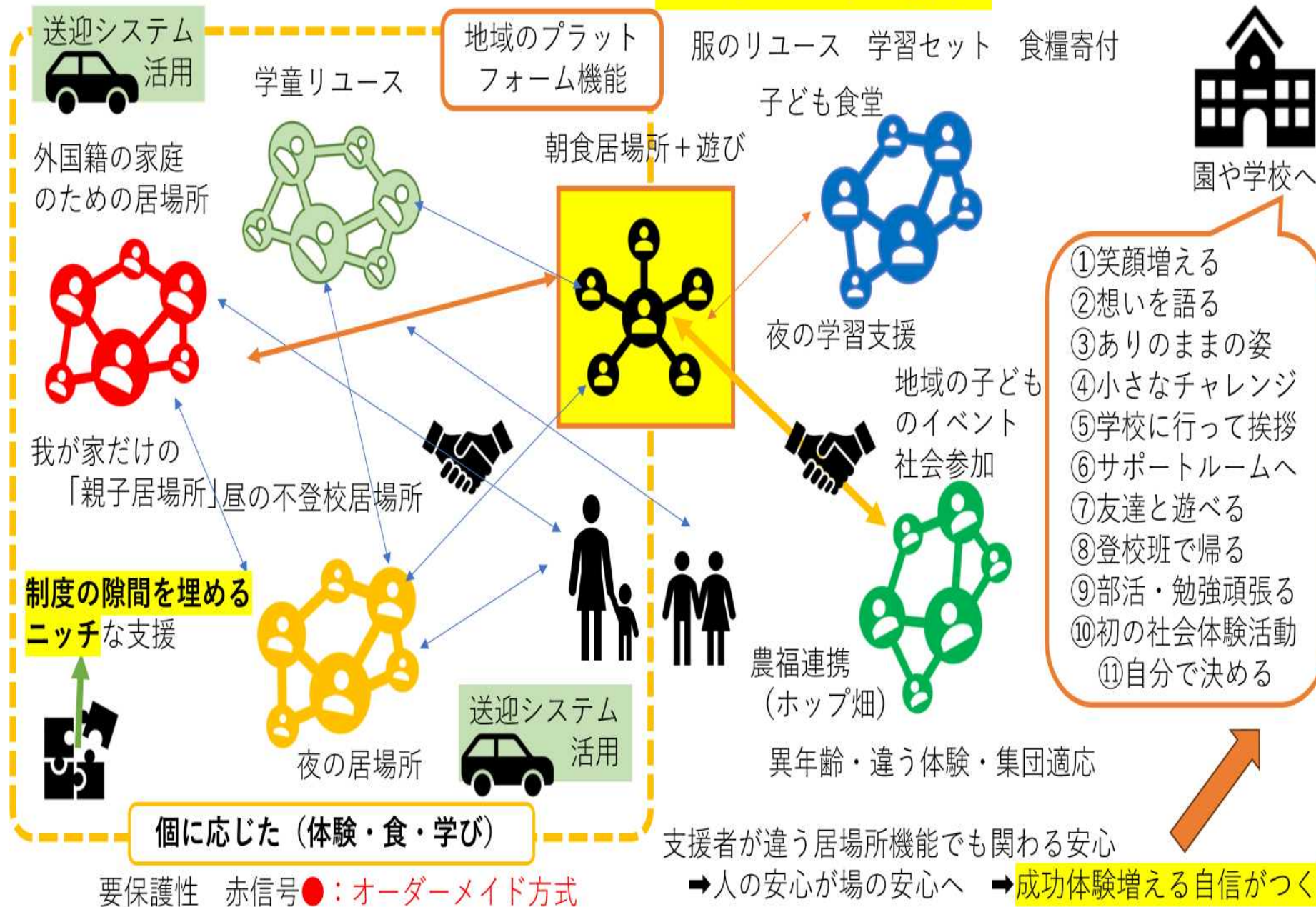
社縁

趣味縁

ネット縁

超える圏域：直接・間接支援

地域の居場所：多機能化+つながり増加=不登校緩和



例：地域の自治会の利活用

居場所機能(朝ごはん) 🍱 2回/月の「つながり」で
信頼できる大人に出会う

心が充電！

安心増える ➡ 元気回復 ➡ いろいろあるけど 頑張れる

困難を抱える子
(本当は 園や学校に行きたい…)



地域で「つながり」のプラットフォーム機能

それぞれの「社会自立」

行ってくるわ！



地域の安全基地機能

「今日は“学校”か！」昨日は、
“フリースクール”やったんか」

いってらっしゃい！



多様なアウトリーチを「共創」することで 制度の隙間・複雑な個別性・多様性を補完できる

公・民・企業の多様な協働で「チーム」形成＋子どもの声を真ん中に＋親の思いに理解

・社会的不利の解消

困難を切り拓く！ 相乗効果戦略★シナジー
教育と福祉の連携も「足し算」から「掛け算」へ

① 信頼できる大人がいることを知る。

基本的信頼感を獲得でき、安定した関りがあることを知る。

その人数が家族の成員以上であること。学校でも家庭の縦関係ではない属性の良さ、
友達のような横関係でない、いわゆる「斜めの関係」良さ。

② 経験の貧困が、解消される。

「できた」「やってみたい」「今はしない」「できないけど、ちょっとやる」

自分で全て選択できる自由があること。そのプロセスを①の大人が、寄り添う。

経験の不足を親身に寄り添ってくれる大人が、温かくみまもってくれる。

一緒に、喜んでくれる。一緒に、考えてくれる。待ってくれる。

送迎問題が解消することは大きい。

③ 親が支援者とつながることで、子どもが、出向きやすくなり、さらに安心増える。地域の寄付が家庭にアウトリーチ型で届くので、家計的にも助かる。こどもに向き合う元気や経済的なことに困窮していても、共助で賄ってもらえる。親が地域力を信じてくれ、無縁を解消できる。

④ 子どもが少しずつ本来の力を回復する。 その子なりの小さな階段を上る。（ベビーステップ）

例：居場所で充電出来たら、そのまま子どもタクシーで、園や学校に迎える。違う日の

登園・当校につながる。公共の支援者の支援に対して保護者も肯定的なまなざしが増える。



ヤングケアラー(中学生)の不登校支援の一例

公的な場所 福祉の空きスペースの利活用

～ 教育も福祉も「支援が届きにくい」家族支援に
(斜めの関係) 地域力の有機的な活用を ～

生きる力を 育む要素

- ◎ 学力
- ◎ 生活習慣
- ◎ 自己肯定感
- ◎ 社会性
- ◎ 自己有用感



高校!!
行きたいな



当たり前の「家庭の安心」を再体験

美味しいね

一緒に
楽しむ

ありのままで
いいんだよ

守秘義務守れる
立場のスタッフ

放課後
登校



下がりきった「自己肯定感」「非認知能力」が ゆっくり回復するイメージです



地域の素敵な未来開発びと（人）

ひとり一人「お志」「人・モノ」を「つなぐ」「束ねる」

子どもの幸福度の多層的な分析枠組み



出典：ユニセフ「レポートカード16」
©（公財）日本ユニセフ協会

届ける 朝ごはん

子どもの幸福度の多層的な分析枠組み



朝食欠食の子が、
マイノリティにならないことを大切にしています。
すべての子の健全育成に資するために・・・
例：生活習慣の見直しと子どもの貧困を包摂!!
① 集う朝ごはん ② 届ける朝ごはん

「集う」が
できない子には
「届けます」
アウトリーチの
朝ごはん



すべての子に
「平等の機会を」



地域の応援団

いろいろな人の
「共助」がいっぱい

より大きな世界

子どもを取り巻く世界

子どもの世界

不登校支援：地域のつながり

ひきこもる若者が
ボランティア活動

障害の方が

子どものために ...
と ご活躍くださり

学校

地域

地域

家庭

おにぎり・おみそ汁

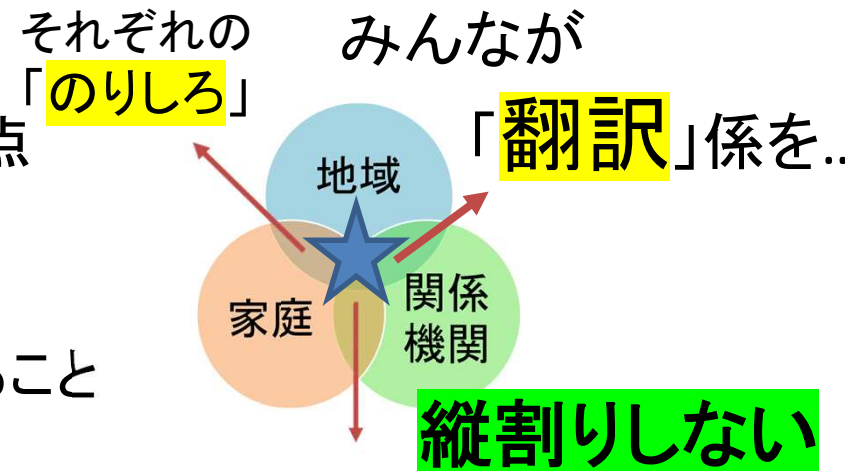


地域



家族支援

- 家族 全体を ケアの対象としてみる視点
- 対象者に「寄り添い」支援を行う姿勢
- すべての人の権利を守ること
- 孤立を防ぎ社会参加・社会生活を支えること



どの目標に向かって いつ 誰が 何 を どうする ➡ 具体化
制度以外の支援の方が 家族機能を支えることも多い

連携協働の大切なポイント➡見通しのある実効性のあるプランをいかに 共通理解できるか！

今こそ **つながり**を...

次世代への「未来への架け橋」



我が町
ふるさと



誰もが

自分らしく

生きられるまち

一人の
一歩

一人の
50歩

は、できないけれど

50人の
一歩なら...